



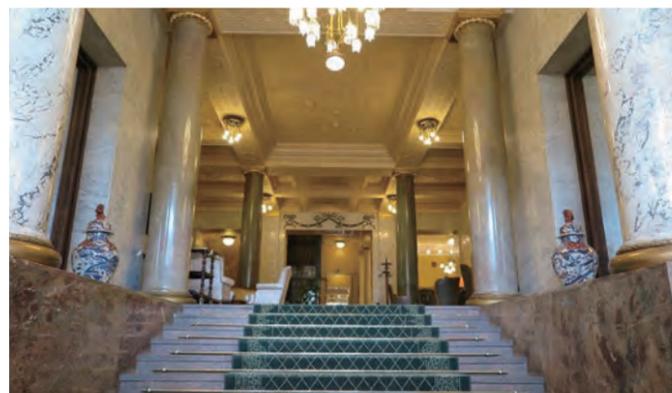
「The Metropole Hotel Moscow」はロシア革命の舞台にも登場したモスクワで最も歴史のある名門ホテルである。1905年の創業以来、常に最高級ホテルの地位を保ち続け、トルストイなど多くの文化人も宿泊している。ホテル正面ファサードの上部外壁は画家ミハイル・ヴェルベルの手によるモザイク画「眠れる森の美女」が確認できる



メトロポールを代表する大ホール「Metropol Hall」。壮麗なステンドグラスで覆われた大天井が目を引き。通常はブレックファストルームとして使用されているが、国際会議や各種展示会場としても使用されている



館内に飾られている創業当時のメトロポールの写真。驚くことに、110年以上も時代の変遷を経ながら、現在とほとんど変わらぬ姿を留めている



帝政ロシア時代を彷彿させるクラシカルな5階建ての建物に入ると、館内は当時の豪華な佇まいの片鱗を見せてくれる



「Metropol Hall」はハーブの生演奏が付いた豪華なブレックファストが有名だ



たっぷり時間をかけた朝食は社交場の意味合いを持ち、往時の豪華を味わえる



筆者 **小原 康裕**
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



館内中央にある広大なロビーホール。ロシア革命など歴史の舞台として重要な役割を演じてきたホテルでもある



「Restaurant Savva」はポリショイ劇場の演目が終わると、観劇帰りのゲストで華やかな賑わいを見せる



シャリアピンの名を冠したアールヌーボーのバー「Chaliapin Bar」

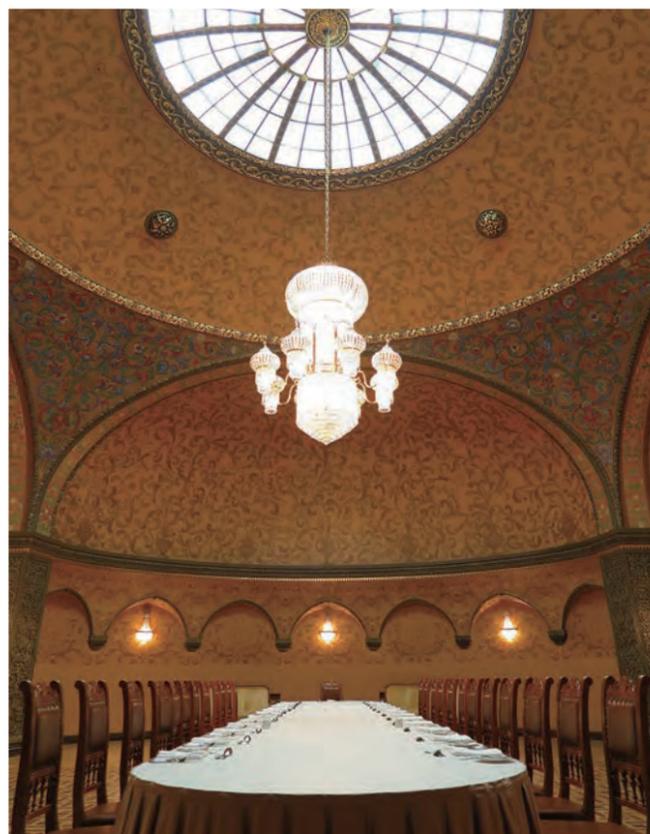
世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

The Metropole Hotel Moscow

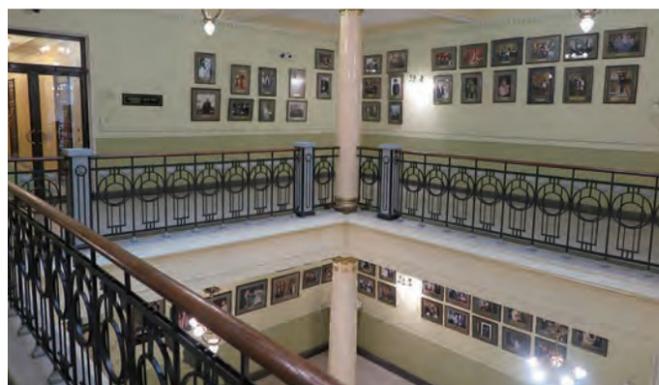
「The Metropole Hotel Moscow」はロシア革命の舞台にも登場したモスクワで最も歴史のある名門ホテルである。創業は1905年、赤の広場から徒歩で数分の位置にあり、ポリショイ劇場の真向かいに位置している。開業以来、常に最高級ホテルの地位を保ち続け、トルストイなど多くの文化人も宿泊している。ロシア革命の際には革



ロシアが誇る世界的オペラ・バレエの本拠地「ボリショイ劇場」の絢爛豪華な館内。“ボリショイ”と聞くと日本ではサーカスを連想するが、ボリショイとは大きいという意味で、直訳すると「大劇場」となる。メトロポールはボリショイ劇場のお隣元であるので、コンシェルジュデスクではチケットの手配が可能である



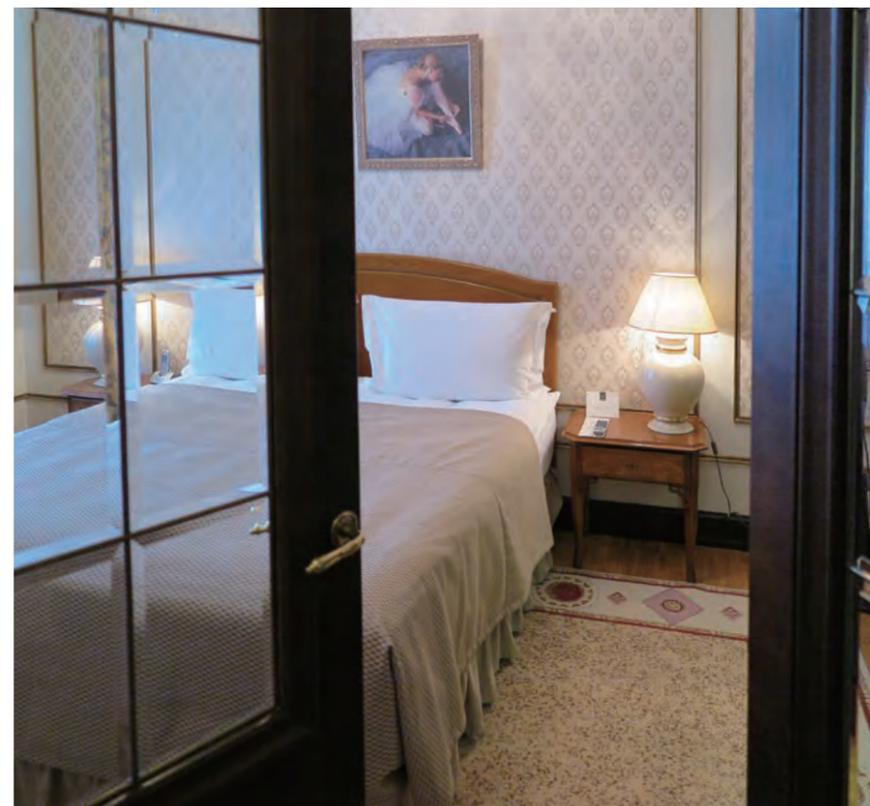
19室あるミーティングルームのうち、古典的な伝統意匠の「Boyarsky Hall」は、まさに帝政ロシア時代にタイムスリップした様な凛とした空気を感じさせる



階段周りにはロシアや世界の著名人の写真を飾ったコーナーがある



中央上段の2枚の写真は、毛沢東とスターリン



「Junior Suite」の独立したベッドルーム。今でこそセピア色の残照を感じるメトロポールだが、ソビエト連邦の最盛期はモスクワで最高の伝統と格式を誇った輝かしいホテルであった



リビングルームからベッドルーム方向を望む



ボリショイ劇場を正面に見渡せるクラシカルなリビングルーム



エグゼクティブラウンジのレセプションとアテンダントの女性スタッフ



閑静な雰囲気のエグゼクティブラウンジ内部

命議会の会場となり、レーニンが様々な演説を行うなど、歴史の舞台として重要な役割を演じてきたホテルでもある。ロシア革命後、首都がサンクト・ペテルブルグからモスクワへ遷都された際には全ロシア中央委員会が置かれ、メトロポールは第二の政府庁舎と呼ばれた。この時期にはレーニン、スターリンなどのソ連最高幹部が居住して執務をしていた歴史が残されている。

メトロポールはロシア革命以前から営業してきた数少ない記念碑的ホテルの一つだ。1930年にホテルとしての機能を取り戻し、その後は日本の橋本元首相やオバマ前大統領など各国の元首や王室も多く利用している。ホテル正面ファサードの上部外壁は画家ミハイル・ヴェルベルの手によるモザイク画「眠れる森の美女」によって飾られ、その美しさは一見の価値がある。今でこそセピア色の残照を感じるメトロポールだが、ソビエト連邦の最盛期はモスクワで最高の伝統と格式を誇った輝かしいホテルであった。

帝政ロシア時代を彷彿させるクラシカルな5階建ての建物に入ると、館内は当時の豪華な佇まいの片鱗を見せてくれる。今回は「Junior Suite」をご紹介したい。正面にボリショイ劇場を見渡せるクラシカルな部屋である。ホテルを代表する大ホール「Metropol Hall」は豪華なブレイクファストが有名で、ハーブの生演奏を聴きながら往時の栄華を味わえる。ホテル創設者である Savva Mamontov 氏の名を冠したレストラン「Restaurant Savva」は、ボリショイ劇場の演目が終わると観劇帰りのゲストで華やかな賑わいを見せる。ミーティングルームは充実しており、15名から400名まで収容できる会議室が19室あり、古典的意匠の「Boyarsky Hall」は、まさに帝政ロシア時代にタイムスリップした様な凛とした空気を感じさせる。

昨今、モスクワの街は再開発の工事が市内いたる所で為され、大型のホテルや瀟洒なレストランも増えて来ている。とくに海外からの観光客誘致に力を入れて、アメリカ系のモダンな超高級ホテルチェーンが多く進出を果たしている。そんな情勢下でもメトロポールは、モスクワを代表する屈指の一流ホテルであることに変わりはない。